

桐壺の家

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	347020401
法人名	医療法人社団 林医院
事業所名	グループホーム桐壺の家
所在地	広島市西区己斐中2丁目-12番-21号 (電話) 082-271-8885
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成19年7月25日

【情報提供票より】(19年7月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤	17 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 11

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て	木造	造り
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 ~ 75,000 円	その他の経費(月額)	49,500 円	
敷金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	65 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広島市立舟入病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、広島市内の古い住宅街の中に閑静な住まいとして静かさに溶け込んでいる。開設から5年目を迎えたが、3ユニットという規模を感じることもなく実にアットホームで、入所者はいきいきとして生活を楽しんでおられる光景はケアの質の高さが伺えるものであった。それは、何よりも法人全体が認知症ケアに対しては一丸となり取り組み、トップである理事長をはじめ職員各々がそれぞれの果たす役割を明確に把握し、日々実践できる環境と体制づくりができてきているからであろう。職員の定着率も最近ではほぼ100パーセントで、グループホームとしては理想とも言えることであり、労務管理についても日頃の積み重ねが結実しつつあることを推測した。また、ホーム全体が清潔感にあふれており、掃除等を含めて日頃の気配り・心配りが行われていると感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点はなく、現在でも改善点は特にみあたらなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人全体の外部評価も行われ、また取り組みもなされおり、今回も他の部署の職員を含めて法人理事長自身も参加し、全員での情報の共有を勤めている姿勢には頭が下がった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の参加者について現状にと止まらず、積極的により身近で多様な人々へ参加の呼びかけが検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	サービスの質の確保・向上のために、家族等の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かす姿勢や体制を組織として徹底させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会長、民生委員との連携体制はすっかり整っているが、今後は、近くの商店も含めて生活に密着した身近な存在との連携強化に今以上に努めてほしい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立場や経験に関らず、パート職員も含め事業所で働く職員一人ひとりが、事業所の理念の中身を知っており、何を大切に利用者に向き合うのか、日々の中で話し合いや認識がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街に立地しており近接した環境を活かしながら、町内会行事への参加、また町内住民の来訪、下校時の小学生とのふれあいなどその交流はもうホームとしてではなく町内の一員として溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人全体として外部評価を周知し理解されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政との連携も具体的課題の一つとして解決に活用していくなど、より実効性のあるものとなっている。今後も、地域住民や多様な組織にも多く参加を呼びかける計画もあるようだ。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の市が主催する研修等に参加をしながら、関係づくりを積極的に図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族への手紙に写真などを添付したり、また来訪時には声をかけ、利用者の状況など綿密な報告が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口をオープンにし積極的な改善の方策につなげている。また、家族にもミーティングへの参加をよびかけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職率が低くなり利用者との深いかかわりができるようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の法人内の合同研修を定期的実施するとともに、各施設でのミーティングでその報告も行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業グループで運営する複数の勉強会に参加し、情報交換を積極的におこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所希望があった時点からホーム体験入所を少しずつ試しながら、家族から詳細に生活歴などを聞き取り、一つでも多くの本人の希望をより細かく把握し取り入れる作業を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活歴や現状からの判断をもとに、本人の何がしたいのかを徹底して掘り起こしながら支援につなげている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人に関わるすべての資料を検討しながら「その人のための支援」を工夫し、実施している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>運営者は利用者の現状把握を伝えるとともに、本人、家族の意見・希望を優先しこれらを介護計画に盛り込んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>家族や本人からの要望、さらには職員の判断により必要な事柄があれば定期だけではなく随時に見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのケアに固執することなく実情、状態をよく判断し、入院や他のサービスへの変更も柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関での受診をしている。また、医師の回診を週2回、常駐看護師の見守りを月～土で実施している。その他連携医療機関との受診も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族そして主治医との連携により終末期における対応を話し合い明確にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の一人ひとりを人生の先輩として敬うとともに、情報の保護を厳密に実施している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日のリズムなどを考慮しながら入浴、散歩など自由な手法で随時対応を中心に支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットでそれぞれ料理づくりが行われ、可能な限り各自の嗜好に合う献立を実施している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望が優先され、きめ細やかな入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸は、ホームの花壇で季節の花々が育成されている。また、日常生活の作業も個々のレベルを見ながら参加を支援するなど個別の対応ができています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の個別による外出・散歩等が行われており、また近隣での買い物の要望などにも希望優先にして対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、無施錠である。各種センサーが機能しており安全を確保している。また、基本セキュリティーは警備会社に委託している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが用意されており、年二回は全員での避難訓練を行い非常時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人に勤務する常勤の管理栄養士がすべての食材・食事管理を行い、適切な摂取を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	モダンなかにも自分の家を感じさせる建物である。共用部分、居室とも広さは十分であり開放感にあふれている。玄関先や建物の周囲には花壇が配置され季節の草花があふれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じお気に入りの物品を持ち込んでおられた。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 A棟

事業所住所 広島市西区己斐中2丁目12番21号

評価年月日 19年7月11日 記入年月日 19年7月11日

記入者 職 介護職 氏名 蒲池 陽介

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての役割の理解に努め、地域住民との交流の中で利用者がその人らしく安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経験等に関係なく、職員一人ひとりが施設の理念を共有しており、利用者と向き合うように支援している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に地域の方々も見学に来られたり、気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として町内清掃や地域の行事にも積極的に参加し、施設からは介護相談日や回覧板等を通して地域の人々と交流することに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員の経験等に基づき、介護相談日、レク体操日を設けている。		勉強会等により認知症高齢者に対する地域の人々の理解を促し、グループホームに入居されている方だけでなく地域の認知症高齢者が安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員のレベルに合わせ、日々の勉強会等の見直しや、年1回の外部評価を活かし質の高いサービスを提供できるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設側からの取り組みや改善策を話したり、地域の方々の理解や支援を得られるよう、より多くの人の参加を促し、参加者からの率直な意見を取り入れ改善に向け積極的に取り組んでいる。		利用者、家族、地域住民等、幅広い立場の方に積極的に参加していただけるよう、働きかけている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設や地域の人々の考えを出し合い、運営・サービスについて討論しながら運営推進会議を通して地域の方々と情報を共有し、協働関係を築いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め利用者が活用する為の話し合いの場を持ち必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者と職員との関係を捉える中で危険を早く見つけ、速やかに対応していくことに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に不安が生じないか、それぞれの立場に立ち、不安や疑問を解決出来るように働きかけ、納得して頂いた上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月手紙で日々の暮らし振りや様子を伝えている。また、金銭管理については出納状況を記した書状を家族に直接渡して説明するなど、常に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が知りたい点を考慮しながらその状況に合わせて報告を記録に残し、ミーティング等で話し合い、かいつに努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや勉強会等、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が代わる場合は、引継ぎの時間を十分に取 り、スムーズに移行できるよう配慮している。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を たて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレ ーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員は法人内の中で老人保健施設での研修を受 けている。また、法人外でも積極的に研修を受 け、研修後はミーティング、勉強会を行い、資 料を活かして伝達している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループ内でのミーティング、勉強会で情報交 換を行っている。また、同業者の集まる研修会 にも参加し、交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環 境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に出来るだけ早く対応できるスーパーバイ ザー等の相談員を配置したり、言いにくいこ とはメール等で対応している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、 各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や成果及び現場で起きて いる状況や変化を把握し、向上心を持って働 く環境づくりとなるように努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、 求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けと める努力をしている。</p>	<p>本人が置かれている状況を理解し、思いや不安 を受け止めて安心してもらえるようにしてい る。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、家族の思いを理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じて出来ることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人ひとりが安心して利用できるよう、相談の時点から施設に来て頂き、短時間でも過ごしてもらう等、家族の希望を聞きながら、柔軟な支援をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要求があった場合には、ミーティングを行い、対応を話し合っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会づくりを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙、はがき、電話等を使用し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの季節の行事への参加等、積極的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来るようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画等を活用し、生活歴や経験を活かして利用者一人ひとりが活躍できる場面を作るなど工夫している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画等を活用し、プライバシーに配慮し、職員、利用者、家族との関係を築きながら暮らしを支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が一人ひとりのことを把握できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、家族と利用者本人、職員とのミーティングを通して作成し、見直しを行い、意見交換の場を設けている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は本人、家族の要望や変化に応じて、3ヶ月毎の期間を置き、現場で対応出来るよう、必要な見直しは随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りにて、利用者の変化を確認し、その都度記録している。「申し送りノート」を活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来るように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者に安心して暮らして頂くために、その状態に応じて老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なピアノ演奏や各機関等（消防・ボランティア・学校等）の協力を得ている。		地域資源の把握に努め、幅広い立場の方から協力を得られるよう情報収集をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できる様に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等を通して地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診(水・土) 看護師常駐(月～土) 24時間受け入れ病院連携(舟入病院) 各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている。(必要な時には往診あり) また、当理事長林 Dr に相談することで、指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療的な面について他の職員と情報を共有し、対応している。		緊急時の対応、薬についてなど勉強会を開き知識を深めると共に看護職との協働体制を築く。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を、本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族、主治医と話し合い、全員で明確に共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>提携病院や協力医療機関とともに充実しており、体制を確保している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に十分な情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように支援している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して敬意を払い接するよう心掛けており、個人情報外部に漏れないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を尊重し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのリズムを大切に状態や想いに考慮しながら入浴や食事の支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	スタッフの好みを押しつけるのではなく、一人ひとりの利用者の個性や希望を尊重し、支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しむように、他の利用者の迷惑にならない様に配慮しながら支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	できるところまでは見守りを行い、出来ない部分はさり気なくカバーするように利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望(時間帯、長さ等)に合わせて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切にし、その人のペースで日々生活が送れることを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	園芸、掃除、食器洗い等、個々の力量、好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じて、小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援するなど、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿って買い物や散歩に出掛けるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、基本的には家族同行で行っている。(ふるさと訪問、墓参り等)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状等を書いて頂くよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては、介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は利用者がお茶を出し歓迎する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。 宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は、身体拘束について利用者が受ける、身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見廻りや、日中は常にフロア全体を見回すことの出来る場所に位置し、さり気なく観察出来るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを活用しながら、再発防止策をその都度話し合っている。 また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長林 Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検も行っている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>家族等と普段からの関係づくりを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>看護師により、毎日バイタルチェックを施行し、職員一同、異常の早期発見に細心の注意を払っている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の知識は、ミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている。服薬は医師の指示通りに支援している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状態を把握し、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は日常的に(イソジンの使用)支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人一人に合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	当理事長林 Dr 作成のマニュアルを基に勉強会を行っており、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節毎に植えかえる等工夫し、訪問しやすい環境を作るよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表す為、飾りを変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団欒できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすいものを購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全棟の窓を開け、換気を行っており、室温は空調により、季節や利用者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、安全に、かつ、一人ひとりの身体機能を活かして出来る限り自立して生活を送れるよう支援している。		一人ひとりの身体機能を把握し、スタッフ同士で共有する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には、目線に合わせて名前を貼り、迷わないよう工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外回りの花壇に花を植えたり、草むしりをしたりできるようにしている。ベランダについても、一緒に洗濯物を干したり、日光浴をする場として活用している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 B棟

事業所住所 広島市西区己斐中2丁目12番21号

評価年月日 19年7月11日 記入年月日 19年7月11日

記入者 職 介護職 氏名 蒲池 陽介

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての役割の理解に努め、地域住民との交流の中で利用者がその人らしく安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経験等に関係なく、職員一人ひとりが施設の理念を共有しており、利用者と向き合うように支援している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に地域の方々も見学に来られたり、気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として町内清掃や地域の行事にも積極的に参加し、施設からは介護相談日や回覧板等を通して地域の人々と交流することに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員の経験等に基づき、介護相談日、レク体操日を設けている。		勉強会等により認知症高齢者に対する地域の人々の理解を促し、グループホームに入居されている方だけでなく地域の認知症高齢者が安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員のレベルに合わせ、日々の勉強会等の見直しや、年1回の外部評価を活かし質の高いサービスを提供できるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設側からの取り組みや改善策を話したり、地域の方々の理解や支援を得られるよう、より多くの人の参加を促し、参加者からの率直な意見を取り入れ改善に向け積極的に取り組んでいる。		利用者、家族、地域住民等、幅広い立場の方に積極的に参加していただけるよう、働きかけている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設や地域の人々の考えを出し合い、運営・サービスについて討論しながら運営推進会議を通して地域の方々と情報を共有し、協働関係を築いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め利用者が活用する為の話し合いの場を持ち必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者と職員との関係を捉える中で危険を早く見つけ、速やかに対応していくことに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に不安が生じないか、それぞれの立場に立ち、不安や疑問を解決出来るように働きかけ、納得して頂いた上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月手紙で日々の暮らし振りや様子を伝えている。また、金銭管理については出納状況を記した書状を家族に直接渡して説明するなど、常に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が知りたい点を考慮しながらその状況に合わせて報告を記録に残し、ミーティング等で話し合い、かいつに努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや勉強会等、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が代わる場合は、引継ぎの時間を十分に取 り、スムーズに移行できるよう配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を たて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレ ーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員は法人内の中で老人保健施設での研修を受 けている。また、法人外でも積極的に研修を受 け、研修後はミーティング、勉強会を行い、資 料を活かして伝達している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループ内でのミーティング、勉強会で情報交 換を行っている。また、同業者の集まる研修会 にも参加し、交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環 境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に出来るだけ早く対応できるスーパーバイ ザー等の相談員を配置したり、言いにくいこ とはメール等で対応している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、 各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や成果及び現場で起きて いる状況や変化を把握し、向上心を持って働 く環境づくりとなるように努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、 求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けと める努力をしている。</p>	<p>本人が置かれている状況を理解し、思いや不安 を受け止めて安心してもらえるようにしてい る。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、家族の思いを理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じて出来ることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人ひとりが安心して利用できるよう、相談の時点から施設に来て頂き、短時間でも過ごしてもらおう等、家族の希望を聞きながら、柔軟な支援をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要求があった場合には、ミーティングを行い、対応を話し合っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会づくりを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>手紙、はがき、電話等を使用し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの季節の行事への参加等、積極的に行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来るようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>介護計画等を活用し、生活歴や経験を活かして利用者一人ひとりが活躍できる場面を作るなど工夫している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>介護計画等を活用し、プライバシーに配慮し、職員、利用者、家族との関係を築きながら暮らしを支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>カンファレンスシートをいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が一人ひとりのことを把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、家族と利用者本人、職員とのミーティングを通して作成し、見直しを行い、意見交換の場を設けている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は本人、家族の要望や変化に応じて、3ヶ月毎の期間を置き、現場で対応出来るよう、必要な見直しは随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りにて、利用者の変化を確認し、その都度記録している。「申し送りノート」を活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来るように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者に安心して暮らして頂くために、その状態に応じて老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なピアノ演奏や各機関等（消防・ボランティア・学校等）の協力を得ている。		地域資源の把握に努め、幅広い立場の方から協力を得られるよう情報収集をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できる様に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等を通して地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診(水・土) 看護師常駐(月～土) 24時間受け入れ病院連携(舟入病院) 各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている。(必要な時には往診あり) また、当理事長林 Dr に相談することで、指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療的な面について他の職員と情報を共有し、対応している。		緊急時の対応、薬についてなど勉強会を開き知識を深めると共に看護職との協働体制を築く。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を、本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族、主治医と話し合い、全員で明確に共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>提携病院や協力医療機関とともに充実しており、体制を確保している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に十分な情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように支援している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して敬意を払い接するよう心掛けており、個人情報外部に漏れないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を尊重し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのリズムを大切に状態や想いに考慮しながら入浴や食事の支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	スタッフの好みを押しつけるのではなく、一人ひとりの利用者の個性や希望を尊重し、支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。 食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しむように、他の利用者の迷惑にならない様に配慮しながら支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	できるところまでは見守りを行い、出来ない部分はさり気なくカバーするように利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望(時間帯、長さ等)に合わせて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切にし、その人のペースで日々生活が送れることを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	園芸、掃除、食器洗い等、個々の力量、好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じて、小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援するなど、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿って買い物や散歩に出掛けるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、基本的には家族同行で行っている。 (ふるさと訪問、墓参り等)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状等を書いて頂くよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては、介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は利用者がお茶を出し歓迎する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。 宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は、身体拘束について利用者が受ける、身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見廻りや、日中は常にフロア全体を見回すことの出来る場所に位置し、さり気なく観察出来るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを活用しながら、再発防止策をその都度話し合っている。 また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長林 Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係づくりを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	看護師により、毎日バイタルチェックを施行し、職員一同、異常の早期発見に細心の注意を払っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の知識は、ミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている。服薬は医師の指示通りに支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は日常的に(イソジンの使用)支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人一人に合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	当理事長林 Dr 作成のマニュアルを基に勉強会を行っており、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節毎に植えかえる等工夫し、訪問しやすい環境を作るよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表す為、飾りを変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団欒できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすいものを購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全棟の窓を開け、換気を行っており、室温は空調により、季節や利用者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、安全に、かつ、一人ひとりの身体機能を活かして出来る限り自立して生活を送れるよう支援している。		一人ひとりの身体機能を把握し、スタッフ同士で共有する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には、目線に合わせて名前を貼り、迷わないよう工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外回りの花壇に花を植えたり、草むしりをしたりできるようにしている。ベランダについても、一緒に洗濯物を干したり、日光浴をする場として活用している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 C棟

事業所住所 広島市西区己斐中2丁目12番21号

評価年月日 19年7月11日 記入年月日 19年7月11日

記入者 職 介護職 氏名 蒲池 陽介

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしての役割の理解に努め、地域住民との交流の中で利用者がその人らしく安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経験等に関係なく、職員一人ひとりが施設の理念を共有しており、利用者と向き合うように支援している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に地域の方々も見学に来られたり、気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として町内清掃や地域の行事にも積極的に参加し、施設からは介護相談日や回覧板等を通して地域の人々と交流することに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員の経験等に基づき、介護相談日、レク体操日を設けている。		勉強会等により認知症高齢者に対する地域の人々の理解を促し、グループホームに入居されている方だけでなく地域の認知症高齢者が安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員のレベルに合わせ、日々の勉強会等の見直しや、年1回の外部評価を活かし質の高いサービスを提供できるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設側からの取り組みや改善策を話したり、地域の方々の理解や支援を得られるよう、より多くの人の参加を促し、参加者からの率直な意見を取り入れ改善に向け積極的に取り組んでいる。		利用者、家族、地域住民等、幅広い立場の方に積極的に参加していただけるよう、働きかけている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	施設や地域の人々の考えを出し合い、運営・サービスについて討論しながら運営推進会議を通して地域の方々と情報を共有し、協働関係を築いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め利用者が活用する為の話し合いの場を持ち必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者と職員との関係を捉える中で危険を早く見つけ、速やかに対応していくことに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に不安が生じないか、それぞれの立場に立ち、不安や疑問を解決出来るように働きかけ、納得して頂いた上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月手紙で日々の暮らし振りや様子を伝えている。また、金銭管理については出納状況を記した書状を家族に直接渡して説明するなど、常に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が知りたい点を考慮しながらその状況に合わせて報告を記録に残し、ミーティング等で話し合い、かいつに努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや勉強会等、意見交換の場を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が代わる場合は、引継ぎの時間を十分に取 り、スムーズに移行できるよう配慮している。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を たて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレ ーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員は法人内の中で老人保健施設での研修を受 けている。また、法人外でも積極的に研修を受 け、研修後はミーティング、勉強会を行い、資 料を活かして伝達している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループ内でのミーティング、勉強会で情報交 換を行っている。また、同業者の集まる研修会 にも参加し、交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環 境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員に出来るだけ早く対応できるスーパーバイ ザー等の相談員を配置したり、言いにくいこ とはメール等で対応している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、 各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や成果及び現場で起きて いる状況や変化を把握し、向上心を持って働 く環境づくりとなるように努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、 求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けと める努力をしている。</p>	<p>本人が置かれている状況を理解し、思いや不安 を受け止めて安心してもらえるようにしてい る。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、家族の思いを理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じて出来ることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人ひとりが安心して利用できるよう、相談の時点から施設に来て頂き、短時間でも過ごしてもらおう等、家族の希望を聞きながら、柔軟な支援をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要求があった場合には、ミーティングを行い、対応を話し合っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会づくりを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>手紙、はがき、電話等を使用し、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの季節の行事への参加等、積極的に行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来るようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にし、その後の支援に応じる姿勢を示している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>介護計画等を活用し、生活歴や経験を活かして利用者一人ひとりが活躍できる場面を作るなど工夫している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>介護計画等を活用し、プライバシーに配慮し、職員、利用者、家族との関係を築きながら暮らしを支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>カンファレンスシートをいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が一人ひとりのことを把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は、家族と利用者本人、職員とのミーティングを通して作成し、見直しを行い、意見交換の場を設けている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は本人、家族の要望や変化に応じて、3ヶ月毎の期間を置き、現場で対応出来るよう、必要な見直しは随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕の申し送りにて、利用者の変化を確認し、その都度記録している。「申し送りノート」を活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来るように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者に安心して暮らして頂くために、その状態に応じて老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なピアノ演奏や各機関等（消防・ボランティア・学校等）の協力を得ている。		地域資源の把握に努め、幅広い立場の方から協力を得られるよう情報収集をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できる様に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等を通して地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診(水・土) 看護師常駐(月~土) 24時間受け入れ病院連携(舟入病院) 各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている。(必要な時には往診あり) また、当理事長林 Dr に相談することで、指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療的な面について他の職員と情報を共有し、対応している。		緊急時の対応、薬についてなど勉強会を開き知識を深めると共に看護職との協働体制を築く。
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を、本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族、主治医と話し合い、全員で明確に共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>提携病院や協力医療機関とともに充実しており、体制を確保している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に十分な情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように支援している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して敬意を払い接するよう心掛けており、個人情報外部に漏れないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を尊重し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのリズムを大切に状態や想いに考慮しながら入浴や食事の支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	スタッフの好みを押しつけるのではなく、一人ひとりの利用者の個性や希望を尊重し、支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しむように、他の利用者の迷惑にならない様に配慮しながら支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	できるところまでは見守りを行い、出来ない部分はさり気なくカバーするように利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望(時間帯、長さ等)に合わせて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切にし、その人のペースで日々生活が送れることを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	園芸、掃除、食器洗い等、個々の力量、好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じて、小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援するなど、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿って買い物や散歩に出掛けるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者が行きたいところを本人や家族から把握しており、基本的には家族同行で行っている。(ふるさと訪問、墓参り等)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状等を書いて頂くよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては、介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は利用者がお茶を出し歓迎する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。 宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなどしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は、身体拘束について利用者が受ける、身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見廻りや、日中は常にフロア全体を見回すことの出来る場所に位置し、さり気なく観察出来るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを活用しながら、再発防止策をその都度話し合っている。 また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長林 Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係づくりを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	看護師により、毎日バイタルチェックを施行し、職員一同、異常の早期発見に細心の注意を払っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の知識は、ミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている。服薬は医師の指示通りに支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は日常的に(イソジンの使用)支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人一人に合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	当理事長林 Dr 作成のマニュアルを基に勉強会を行っており、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節毎に植えかえる等工夫し、訪問しやすい環境を作るよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表す為、飾りを変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団欒できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすいものを購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全棟の窓を開け、換気を行っており、室温は空調により、季節や利用者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、安全に、かつ、一人ひとりの身体機能を活かして出来る限り自立して生活を送れるよう支援している。		一人ひとりの身体機能を把握し、スタッフ同士で共有する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には、目線に合わせて名前を貼り、迷わないよう工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外回りの花壇に花を植えたり、草むしりをしたりできるようにしている。ベランダについても、一緒に洗濯物を干したり、日光浴をする場として活用している。		